



交流及び共同学習 居住地校交流だより



(後期号)

平成31年3月5日 秋田県立比内支援学校

障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたちが共に活動する機会を通して、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、国、県共に交流及び共同学習を推進しています。居住地校交流は、交流及び共同学習の中で大切にしている活動です。

本校でも児童生徒が、自分の住んでいる地区の学校に行って学習する「居住地校交流」を行っています。後期は、小学部5名、中学部7名の児童生徒がそれぞれの居住地校を訪問して交流を行いました。たくさんの人と出会い、ふれ合い、様々な経験をし、地域に多くの友達ができるように丁寧に進めています。後期に実施した交流の様子を紹介します。

城南小学校 4年

特別活動の授業に参加しました。「バラバラ言葉」ゲームでは、友達と一緒に答えを考えたり自分から発表したり、楽しく活動することができました。

有浦小学校 特別支援学級

ホットケーキ作りを一緒に行いました。初めての交流でしたが、興味のある活動で顔見知りの児童が多かったため、楽しく取り組むことができました。

桂城小学校 6年

家庭科の授業に参加しました。自分から協力してジャーマンポトを作ったり、友達の言葉を受け入れて活動をしたりし、楽しく交流ができました。

第一中学校 特別支援学級

生活単元学習に参加し、とうもろこしの収穫をしました。一中の生徒が優しく教えてくれ、本校の生徒も照れながらもたくさん話し掛け、協力して作業ができました。

東中学校 特別支援学級

作業学習に参加し、クリスマスカード作りをしました。初めて会う生徒同士での活動でしたが、教えてもらったり見せ合ったりしながら一緒に作業ができました。

比内中学校 3年

ハンドベルの演奏を行いました。同じ小学校だった生徒を中心に温かく接してくれたので、自分から進んで声を掛けたり、自信をもって取り組んだりすることができました。



【保護者の感想】

年頃になって女子との交流は恥ずかしがっていましたが、男の子がいたのでその子に教えられながら楽しそうにできていたので良かったです。逆パターンもあればいいのかなと少し感じました。

初めての場所で、いろいろと歩き回っていましたが、交流先の児童が優しく接してくれてうれしく思いました。

今年は去年よりも話ができていて、楽しめたようなのでよかったです。調理だと本人ができないと思うこともなかったし、みんなとなじめたと思います。最初と最後のあいさつも立派にできてよかったです。

